板戸より日光山をのぞ
む 東京 霊山 高雲 雲色 面
白き 一巻 横幅 貞臣
孔雀 ゝ 写 ゝ る

板戸より日光山を
ながめて

はるゝと東叡山目ふうみて
花盛はさき戸ゝ 明ゝ雲
言次賀をゆゝて
明ゝ花盛ゝ
道ゝ
ながめて
うゝ河ゝ

小ゝ祢川ゝ

上野の杉ゝ花盛をみ京ゝに
出情い伊人屏の三祢の河ゝ
こゝ世ゝ重いゝ球ゝ

出羽に伊久保の三孫の河のあ
こうはたてをとうてとうる球
毎年の年貢のとう利の体所
拾ヶ年ヶ河の松の下地
この道ふるを世をとる所
ゆくゆくはるばるこうれ年拾年

本沢村をよめる

うけ志き年本沢のむらの明ちなる
ちしし河し志はは来こうる人
遠方小舟

旅人ちうる高れこうる
ちしし河本沢のこうは皆年
野沢むらのうら河ゆくて

但蒼生のゆくふえて　ゆくみ所も
高野年本沢のむらの河
村の名は野沢のあれ　出羽うけて
ゆくを西球　ちうけるこうる

大谷川

浪河年さうれを出も地利を出て
すあるを年世一谷川の水
山年こ　うけまうて

[illegible]川の水
山あゐ
蓮より出る
ゆを測る
[illegible]麻色
[illegible]

神の御橋を

いにしへの動りを[illegible]て
ゆきを[illegible]
[illegible]

金満ゆる

石をあこかの道[illegible]
山とみたりの市つみたり[illegible]

[illegible]を
含み
満ゆる[illegible]
[illegible]

御山仁王門[illegible]
日[illegible]
[illegible]

中禪寺（四[illegible]）
知遊[illegible]
海[illegible]

知遊東海

海道に
行くに杉板
の中山
高
寺屯

華厳の滝を
みはるかして

御法師小川の滝法師
地刈して
川くしき名を
中禅寺にて湖をのぞむ

池尾き
高ふ
海ちく
なをうけ
なる滝や
なる音
の
むら雨
湖

雲陽道に入
おこなひ
山桜
ちる
鶯の声
ちる
ひ
の
あるこ
ひき

日光泉をみて
こゝにたまはれの
京前刑
そのまふ
ふ
若や

日〻花泉をみて
こゝろたきはれの
京都別れ
なのまふ若葉哉
こゝ
紅葉
市松

宮かゝこ石をたゝくいとはと
あるじやあゝ物うち人
家老のみちふの
知らす石市川風もすもも
とのさひしきは扶北下もち
日〻ふるして
常盤木北もちのひらをて
若葉人さゝのさゝをうとりみち
湖をよる
初夏の我若葉
夫代のなすのうの
侍従貞房

[illegible]

そのさひしきは扨也下ち

回しかるよりて

帝釋木此ちかひをえて

為さんさいしさるうとりみ乳

海をよる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

侍從貞長

横瀬貞臣日光道中和歌
服部文庫
イ 17
2376

117
2176

松戸より日光山までの
道筋霊山寺の幕を画
き一巻に模写貞臣
孫讃を添へる写しとる

宮内庁書陵部

松戸より日光山を
望むのたて

横瀬貞臣日光道中和歌

服部文庫
イ 17
2376